

# 基本的検査について **いつでも、 どこでも必要な検査**

日本臨床検査医会副会長 桑島 実



表1. 基本的検査(1) (いつでもどこでも必要な検査)

①尿検査	蛋白、糖、ウロビリノゲン、潜血
②血液検査	白血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、赤血球数
③糞便検査	潜血
④赤沈とCRP	
⑤血液化学検査	血清総蛋白濃度、アルブミン・グロブリン比 (A/G比)

病気になる病院や医院を受診するとまず最初、どこが、いつから、どのように具合悪いかを聞かれます。これは問診です。次に診察に移り具合の悪いところを見られたり、触れられたり、心臓や肺の音を聴診器などを使って調べられます。経験のある医師は、この問診と診察だけで普通の病気の八割程度は正しく診断できるといわれています。しかし、問診や診察から得られる情報は客観的な数値として表わすことができない不確実な要素を含んでいます。そこで、問診、診察と平行して、いつでも、どこでも、簡単にできる必要最小限の

表2. 基本的検査(2) (入院時あるいは外来初診時でも必要のあるとき行う)

1. 尿検査	色調、混濁、pH、比重、蛋白、糖 (食後2~3時間尿) ウロビリノゲン、潜血、亜硝酸塩、試験紙による白血球反応 (エステラーゼ); 沈渣
2. 血液検査	1)CRPとシアル酸 (または赤沈) 2)白血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、赤血球数、赤血球恒数; 血小板数、末梢血液像 3)血清総蛋白濃度、血清蛋白分画; 総コレステロール、中性脂肪、AST(GOT)、ALT(GPT)、LDH、ALP、γ-GT、尿素窒素、クレアチニン、尿酸
3. 糞便検査	潜血; 虫卵
4. 血清検査	HBs抗原; 抗体検査、梅毒血清反応
5. 胸部・腹部単純X線撮影	
6. 心電図	

- 7月号 高血圧症 (血圧が高い言われたときに受ける検査)
- 8月号 高脂血症 (コレステロールが高いと言われたときに受ける検査)
- 9月号 糖尿病 (糖尿病が疑われるときに受ける検査)
- 10月号 高尿酸血症 (痛風と言われたときに受ける検査)
- 11月号 循環器疾患 (心臓に問題のあるときに受ける検査)
- 12月号 肝疾患 (肝臓に問題があるときに受ける検査)
- 平成12年
- 1月号 血液疾患 (貧血があるときに受ける検査)
- 2月号 腎疾患 (腎臓に問題があるときに受ける検査)
- 3月号 自己免疫疾患 (自己免疫疾患が疑われるときに受ける検査)

## 「検査のわかるページ」今後の掲載予定

検査を選び、得られた客観的データを診断の参考にします。このような検査を基本的検査といえます。基本的検査の項目に決まりきつたものはありませんが、一例として臨床検査の専門学会である日本臨床病理学会が推奨しているものを表に示します。比較的簡単な検査ですが、これだけでもどこに問題があるか推定できます。例えば尿検査からは腎臓や肝臓の病気、糖尿病

の疑いがあるかどうか。血液検査からは貧血など血液の病気の有無。血液と血液化学検査からは一般状態が良いか悪いか。赤沈(赤血球沈降速度)、白血球数CRPから感染症の有無。便潜血反応から胃腸病の有無などが推定できます。さらに入院が必要な病気の場合はやや詳しい基本的検査(2)を選びます。それぞれの検査の内容については次回以降説明します。